

③卵巣チョコレート嚢腫

体外受精との関係

体外受精を考えているケースにおいて、卵巣チョコレート嚢腫の取り扱いに関して検討してみたいと思います。卵巣チョコレート嚢腫とは子宮内膜症嚢胞のことで、子宮内膜症患者の2～5割に見られます。嚢腫の内腔には毎月生理の度に卵巣内に出血が貯まり、古くなり固まって、あたかもチョコレートのように見える事でつけられたものです。

ARTを希望される方でチョコレート嚢腫を合併しているケースは少なくありません。

卵巣チョコレート嚢腫がある場合のARTは、色々な意味で治療に苦慮する事が多々あります。

例えば

- ①チョコレート嚢腫により卵胞の発育が悪いケースもあります。
- ②卵巣が癒着しており採卵しにくいケースもあります。
- ③採卵の際に穿刺吸引した場合：採卵の際にチョコレート嚢腫も同時に穿刺して内容吸引するという事も技術的には可能ですが極力避けるべきだと思われます。嚢腫内容が腹腔内に漏れて腹膜炎を起こす可能性があるからです。
- ④「卵子の質が低下する可能性がある」という報告があります。

チョコレート嚢腫の取り扱いにはおおよそ以下の2通りの選択肢があります。

- ①チョコレート嚢腫をそのままにしてARTを行う。
- ②腹腔鏡手術でチョコレート嚢腫を取り除き、その後ARTを行う。

このどちらの治療が正解かは議論されている所です。手術をするかしないかに関しては様々な論文が出ており今後の更なる検討が求められています。メリット、デメリットを考えて見たいと思います。

チョコレート嚢腫を残した場合のメリットとしては

- ①手術をしなくてもARTで妊娠できるかもしれない。
- ②卵巣にメスを入れないので卵巣予備能が下がりにくい。

チョコレート嚢腫を残した場合のデメリットとしては

- ①今後癌化する恐れがある。(0.5～1%の確率)
- ②嚢腫の破裂の恐れがある。(3%程度)
- ③基本的には自然にはなくならず、今後さらに大きくなる可能性がある。

チョコレート嚢腫を取り除いた場合のメリットとしては

- ①癌化の恐れを取り除ける。
- ②破裂の恐れを取り除ける。

③自然妊娠しやすくなる。

チョコレート嚢腫を取り除いた場合のデメリットとしては

- ①卵巣予備能が低下する恐れがある。
- ②手術をすることで妊娠への時間が遅くなる。
- ③お腹に小さい傷が残る。

これらのメリット、デメリットをふまえた上で、嚢腫のサイズ、年齢も考慮し、今後どういった選択肢を選ぶかを定める事になります。

個人的な意見として一番好ましいと思う治療は、まず腹腔鏡でチョコレート嚢腫を取り除き、その後3～6カ月程度タイミング療法やAIHを行い、妊娠しない場合はARTを行う事だと思っています。

その理由として、

- ①チョコレート嚢腫は(確率が低いとしても)癌化や破裂の恐れがあり、妊娠前に取り除く事が望ましい。
- ②手術の際には癒着剥離等を行うため、手術後自然妊娠する可能性が増える。
- ③子宮内膜症の存在が卵子の質を低下させ体外受精の成績に悪影響を及ぼす可能性があるとの報告がある。

そのため、「まずは腹腔鏡でチョコレート嚢腫を取り、その後自然妊娠しない場合は体外受精へとステップアップする」、この一連の流れでの治療が好ましいと思われます。